

## 公表 事業所における自己評価総括表

|                |                      |    |                |
|----------------|----------------------|----|----------------|
| ○事業所名          | クオリティ・オブ・ライフ土浦第2支援教室 |    |                |
| ○保護者評価実施期間     | 令和 8年 2月 1日          |    | ～ 令和 8年 2月 20日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)               | 23 | (回答者数) 23      |
| ○従業者評価実施期間     | 令和 8年 2月 9日          |    | ～ 令和 8年 2月 20日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)               | 5  | (回答者数) 5       |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 8年 3月 9日          |    |                |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等  |
|---|---|--|---|
| 1 | 職員のモチベーションが高い。                              | 自分の不安を取り除いて確認して自信につなげている。<br>職員同士が協力して関わっている。  | 子どもへの関わりを1人で行うわけではなくチームで行えるようにしていく。                     |
| 2 | ・児童一人ひとりの特性や発達段階に合わせた支援を心掛けている。             | ・活動前にホワイトボードを使用することや視覚からの支援を行うことで、見通しを立てることにつながっている。子供が安心して活動に参加できるようにしている。            | 視覚的な支援は継続しながら、様子の変化に応じて保護者との連携を取りながら状況に合わせた支援を継続していきたい。 |
| 3 | ・保護者とのコミュニケーションを大切に、送迎時やHUGを通して日々の様子を伝えている。 | ・送迎時に直接お話しできる機会を意識している。出来るだけ多くの保護者と関わられるよう、日によって異なる送迎先に入るよう、自分の名前を組み込み、幅広く関わる機会を作っている。 | ・子ども一人ひとりに合った支援方法について職員間で話し合う機会を増やしていく。                 |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                               |
|---|--|---|--|
| 1 | 支援員間だけでなく、保護者の方にも定期的なマニュアル等の説明が必要          | 契約時に説明しているが、3年経過しマニュアル等の認識も低下しているため支援員間で確認していくだけでなく共有していく必要がある。 | 研修や親子イベントの機会を使って、事業所の設けている基準等を再確認していく機会を定期的に作っていく。 |
| 2 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。     | 少しずつ交流の機会を設けているが、現状は少ないと感じている。                                  | イベントの機会に目的を説明しながら、どこに結び付けているかを提示していく。              |
| 3 | 行っていることの周知ができていない部分がある。<br>(避難訓練や親子イベント等)  | カリキュラムを通して、家族イベントや避難訓練を行っているが行っていることの内容を伝えていないことで周知ができていない。     | 行った後に事業所としての振り返りを参加している有無に関わらず提示していく。              |